

## ノーマライゼーションの理念に基づき 地域共生を実践していく

### 社会福祉法人 舟和会 (山形県 最上郡舟形町)

東北中央自動車道、舟形インターチェンジから車で5分ほどのところに、3階建てで茶色の悠然とした施設が見えてくる。

社会福祉法人舟和会は、安心な質の高いサービスと地域共生を実践している社会福祉法人として注目されており、現在は障がい者支援施設「光生園」、特別養護老人ホーム「えんじゅ荘」、地域密着型介護老人福祉施設「ほなみ」を運営している。



施設長 伊藤廣好氏

今回は、代表的な施設となる「光生園」を中心に舟和会の取り組みについて、施設長の伊藤廣好氏にお話をお聞きした。

#### ■ 東北初の身体障害者療護施設を開設

光生園の原点は、1974（昭和49）年に当時の舟形町長で初代理事長の澤内甚一郎氏がまだ一般的に知られていなかった「福祉」を目的に社会福祉法人を設立し、翌年に開設した東北で初めてとなる身体障害者療護施設である。

当時は、障害者を特別視した時代であり、どちらかという隔離しようとする動きが多かった。そのような時代に、東北の片田舎で厳しい環境のもとで生活していた家族に障害者がいたら、大変な生活を強いられることになる。「こうした中で、前例のない福祉事業を一からスタートさせるには、大変な苦労があったことだろう」と施設長は話してくれた。

#### ■ 町の中に身体障がい者支援施設を移転新築

1975（昭和50）年に施設を開設したが、28年後の2003年からやっとノーマライゼーションの理念に基づいて支援費制度の拡充が図られた時代背景を考えると、光生園がいかに先駆的で、時代が後から着いて来たかが分かる。

「設立当初は町外れの高台に施設があり、障害者

を隔離する風潮があったと思う。電動車いすでの移動やサポートする人も結構大変であったと聞いていた。現在では地域共生の考え方に完全に変わっている。こうした考えから2016年4月に所在地の町中に新築移転した」と施設長は話してくれた。奇しくも同月「障害者差別解消法」が施行されたのである。



光生園 全景

#### ■ 新しい光生園は安心安全な施設

施設長より1階から3階を案内していただいたが、どのフロアも居室もみなとにかく明るいことに気が付く。採光については施設全体の設計にかなり工夫がされていることがわかる。

全室に「におい・ウイルス対策のナノイー装置」が設置されている。また、冷暖房も安全な電気式（全室エアコン）にしており、特注のタンス設置等々安全対策は枚挙にいとまがない。もちろん完全なバリアフリーだ。

旧施設は4人部屋であったが、新施設は8畳の個室である。家族との面接時はマスク、手洗いを励行したこともあって、昨年度、インフルエンザが大流行した際にも、利用者の罹患はなかったと聞く。個人のプライバシーも以前より格段に守られることになった。

フロアを歩くと気づくが、床が滑りにくい。柔らかい感触があり、「転びにくい仕組み、転んでもけがをしにくい床にしている」と施設長が話してくれた。施設は県内最大級の規模で、前述の通り充実したハード面によって、安心安全な施設となっている。また毎月、防災訓練を実施し、利用者の安全確保に努めている。

#### ■ より質の高いサービスを目指して

光生園は規模としては定員100名が長期入所できるが、現在県内外から105名の利用者がいる。利用希望の引き合いが多いのは設備の充実だけが理由ではない。

多くの施設では看護師不足で24時間体制は難しい環境にあるが、当園では11名の看護師で24時間体制を可能としている。

利用者の全員がリハビリを受けているが、理学療法士、作業療法士、介護福祉士の3名体制で支援している。ほかの施設で3名体制は、なかなかないそうである。加えて月2回は県立保健医療大学の先生からも指導を受けているとのことである。

通常、資格がないと看護師しか吸引はできないが、当園には喀痰吸引の有資格者が50名おり、利用者を支援する体制を整えている。

利用者の楽しみである食事については、毎月食事部会を開催して管理栄養士が利用者を交えて意見要望を聞いている。バーベキュー、そば会食、花見弁当、カド焼、誕生日、クリスマス会等々おいしい行事食を取り入れて、好評を得ている。

また、昨年初めて施設サービスの「第三者評価」を受審し、高い評価を得て、サービスの質の高さを証明した。さらに利用者満足度を高めて行く予定だ。



リハビリテーション室内

#### ■ 職員の処遇改善・キャリアアップ支援

より質の高いサービスを提供するには「利用者と同じくらい職員も大切にしなければならない」と施設長は語る。当法人全体で臨時職員を対象にした内部登用試験を実施し、昨年32名を正職員に登用した。各種資格取得者への助成制度もある。外部講師を招いて「仕事の作法を磨こう 接遇研修」等を開催。コミュニケーション能力を向上させている。

#### ■ 家族会の開催

利用者の近況や当園の状況、職員について、利用者の家族の方々から知ってもらうために、毎月家族会を開催し、家族間の交流も深めてもらっている。障害者を持つ家族の共通の話題を話し合えるいい

機会となっているが、最近では家族会の際に「認知症サポーター養成講座」を開催するなど課題解決に向けた活動を行っている。12月には弁護士を招いて「成年後見人制度研修」を予定している。障害者を持つ家族共通の問題を、職員も含めて勉強し解決しようと前向きに取り組んでいる。



秋のふれあい感謝祭

#### ■ 地域共生社会の確立に向け

地域共生社会確立の一環として「福祉なんでも相談会」を舟形町と共催で昨年開催した。看護師、介護福祉士、栄養士などを派遣し、介護、医療、栄養、リハビリなどの相談ブースを設置して、地域の方々のニーズに対応した。今年は「近い将来の地域福祉を考える」をテーマに立教大学から講師を招いて地域公開講座を開催する予定だ。町の福祉担当者や民生委員、町内会長、職員等に参加してもらい社会福祉法人や地域の人々の役割について考え、地域で共生することを目指している。

また、本業外であるが要望のある在宅障害児（18歳未満）に対する支援として、舟形町と新庄市より日中一時支援事業の受託や、短期入所の受け入れも実施している。重度障害者を受け入れながら障害児まで支援するのは職員の理解と並々ならぬ努力が必要であると思われる。

このほか、当施設の駐車場には緊急時に備え、ドクターヘリランデブーポイントが設置（冬期を除く）されており、利用者だけでなく、地域の人々も利用できるようにしている。

職員、利用者、家族、地域の人々がノーマライゼーションの理念に基づき地域共生を実践していく姿を施設長は語ってくれた。

（フィデア総合研究所 廣野 宏之）

#### 社会福祉法人 舟和会

理事長 伊藤 宏  
所在地：山形県最上郡舟形町舟形4733番地  
設立：1974（昭和49）年5月  
業種：社会保険・社会福祉・介護事業  
従業員数：192名 URL <http://shuwakai.jp/>